



宝塚市立売布小学校 学校長 藤山 昌生



「一月は往める(行く)、二月は逃げる、三月は去る」と言われますが、あっという間に1月が過ぎ去ってしまいました。このように、年の初めの3ヶ月は何かと慌ただしく、行事も多くてすぐに時間が経つので大切に過ごさなさいということと同時に、過ぎ去っていく時間は二度と戻ってこないものなので、「今、この時」を有意義に使うということを伝えられているものだと思います。

さて、1月25日～27日に開催されました「めふ小アートミュージアム(図工展)」では、限られた時間の中でしたが、多くの保護者のみなさまに、お子さまの作品だけではなく、たくさんのお子も一人ひとりの頑張りをご覧いただきありがとうございました。特に土曜日には、お子さまと一緒にゆっくりとご覧いただいている姿が多く見られ、うれしく思いました。

「みんなで考えよう SDGs」という大きなテーマのもと、それぞれの図工の時間には、学年のテーマを設定し作品作りを進めてきました。元は同じ材料を使っても、制作している過程でそれぞれの個性がにじみ出てきます。まるで工房にいる職人のように一人で黙々と作品作りに没頭する子もいれば、友だちの作品に大きな刺激を受けてアイデアを思い浮かべる子、よりイメージを膨らませるために、画集やタブレットなどでアイデアを見つけ出す子など様々です。逆に、いろいろな材料を駆使して、自分の感性を信じて完成を目指すあまり、次々といろいろな想像力やアイデアが湧き出してきて、最終ゴールに辿り着くのに時間がかかった子もいました。作品作りに込めた思いや、その制作過程での苦労や思いは、制作者にしかわからないところもあります。あらためて、お子さまから聞いてみてくださいね。

新年の図書室では、おみくじ(中には、図書委員おすすめの本が紹介されています)を引き、「プラスワンチケット」をいただくという素敵な企画がありました。通常は一人につき2冊までしか借りられないところを、このチケットを使うと、もう1冊借りることができるというものです。休み時間や図書の時間にこのチケットを嬉しそうに使う子どもたちの姿も多く見られました。

これから、節分そして立春を迎えます。少しずつ春に向かって暖かくなっていくのが楽しい季節となりますが、全国的に新型コロナウイルス等の罹患者も増加し、感染症への対策もしっかりとしていかなくはなりません。今年は、4年に一度のうるう年で、「プラスワン」のような1日があります。このいただいた1日も含めて、“逃げる”2月を1日1日大切に過ごしていきたいと思えます。

